

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月2日 (金)

会場 日立北高等学校体育館

【男子の部】 第1日目 Eコート 第1試合

チームA 府立東住吉工業 大阪	76	{ <table border="0"> <tr><td>24</td><td>1Q</td><td>28</td></tr> <tr><td>19</td><td>2Q</td><td>24</td></tr> <tr><td>18</td><td>3Q</td><td>24</td></tr> <tr><td>15</td><td>4Q</td><td>23</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table> }	24	1Q	28	19	2Q	24	18	3Q	24	15	4Q	23		OT		99	チームB 県立高崎商業 群馬
24	1Q	28																	
19	2Q	24																	
18	3Q	24																	
15	4Q	23																	
	OT																		

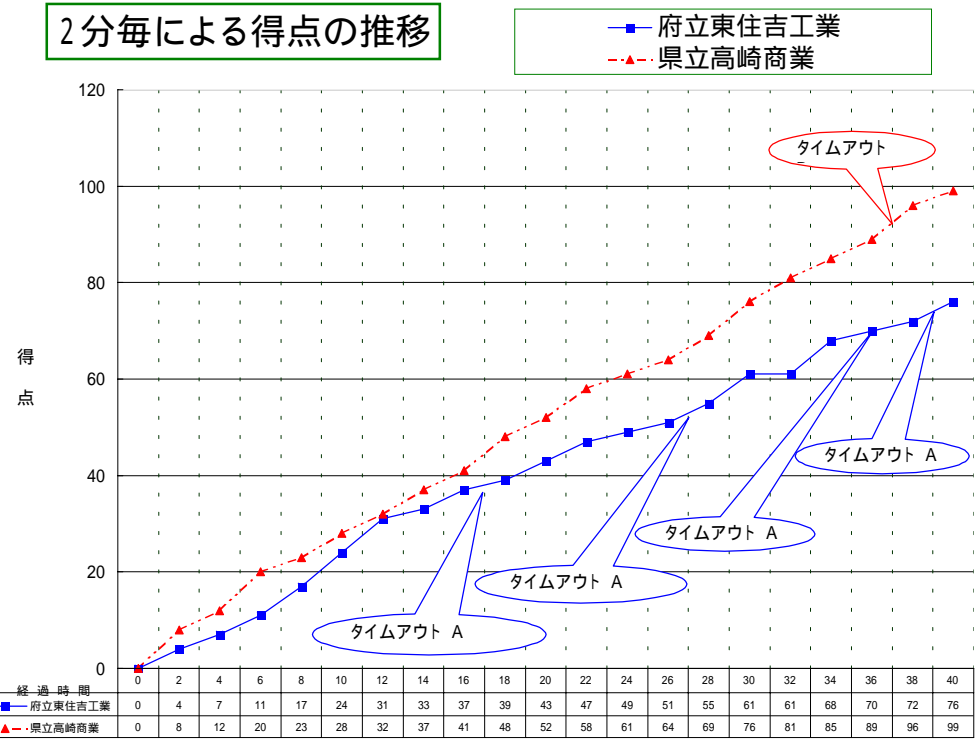
府立東住吉工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	竹田 祐弥	33	5	6	8	15	2	2	1	1	4	5	1	1	0	34
5	宮崎 純	20	0	0	6	15	8	8	4	0	3	2	1	0	0	32
6	清水 俊平	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
7	森川 健一	0	0	6	0	4	0	0	0	0	2	2	1	4	0	35
8	柳楽 健	4	0	1	2	4	0	0	1	0	3	2	0	0	0	15
9	西村 慶	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	8
10	高田 紘久	8	0	0	4	4	0	0	4	2	5	1	2	3	0	23
11	引地 洋二	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	3
12	辻 大地	4	0	3	2	3	0	0	0	3	0	2	1	1	0	4
13	安田 知弘	2	0	3	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	13
14	安岡 武史	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
15	中村 昌也	3	0	0	1	7	1	2	1	4	1	0	1	0	3	26
コーチ	岡田 伸二								0							
		76	5	23	25	54	11	12	13	11	20	17	8	10	3	200
		確率	21.7%		46.3%		91.7%		計	31						

県立高崎商業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	品川 典明	7	1	1	2	3	0	0	1	2	5	2	3	6	0	33
5	阿部 智亮	18	0	0	9	20	0	0	0	2	3	2	1	1	0	26
6	飯尾 彰悟	14	2	13	4	6	0	0	3	3	1	0	1	1	0	19
7	湯浅夢音人	2	0	0	1	1	0	0	4	2	4	1	0	2	0	11
8	塩山 隼輔	34	6	10	8	13	0	0	1	0	0	5	3	6	2	36
9	林 聖次郎	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4
10	天田 毅	2	0	0	0	0	2	2	1	0	2	0	0	0	0	7
11	蓮見 次郎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12	上田実知仁	7	2	2	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	5
13	坂本 優	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	5
14	篠原 徹	9	0	0	4	14	1	2	1	7	5	2	0	0	0	29
15	篠原 賢	6	0	0	3	5	0	1	3	5	5	2	0	0	2	23
コーチ	中山 義則								0							
		99	11	26	31	63	4	7	15	22	28	17	8	17	4	200
		確率	42.3%		49.2%		57.1%		計	50						

2分毎による得点の推移



戦評

スピードを持ち味とする両チームの対戦は、序盤からハイペースの展開となった。最初リズムをつかんだのは高崎商。#8塩山が攻守に大活躍。5分すぎには連続3Pシュートを決める。東住吉工は6分すぎにディフェンスをボックスワンに。すると流れは東住吉工に変わり、#4竹田の3Pシュートなどで追い上げ、28対24高崎商リードで第1P終了。

第2P、マンツーマンの高崎商に対し、東住吉工は#7森川が高崎商#8塩山を徹底マーク。一進一退の攻防を繰り返すが、中盤を過ぎたあたりから、高崎商のスピードが東住吉工を上回り始める。高崎商#14、#15篠原兄弟のリング下でのがんばりもあり点差を徐々に広げていく。東住吉工は1-2-2ゾーンで対抗するが高崎商の勢いは止まらず52対43高崎商リードで終了。

第3P、東住吉工は#5宮崎がリング下で孤軍奮闘。フリースロー6本すべて決めるなどの活躍をみせるが、コート縦横無尽に走る高崎商は点差をさらに広げていく。

第4P、逆転を狙う東住吉工は闘志を前面に出し、必死の追い上げを試みたが、高崎商のスピードは最後まで衰えることなく99対76で高崎商が快勝した。

主審 柳屋伸明

副審 西島詠治

記入者 鹿島正浩